

花園から、世界へ！

『花園プレス・グローバル』

「グローバル社会」「グローバル人材」「グローバル・スタンダード」——。新聞やニュース、学校内でも目にする事の多くなった「グローバル」という言葉。

「地球規模の」という意味のこの言葉は、一見、自分とは遠いことのように思えるかもしれませんが、実はこの「グローバル化」によって、中学・高校教育、大学入試も大きく変化しつつあります。これからの日本、そして世界で生きていく上で逃れることのできない、大きな流れである「グローバル化」。「グローバル社会」とは、どのような社会なのか？ 「グローバル社会」を生き抜くために、今、できることは何なのか？ そもそも「グローバル教育」とは何なのか？ なぜ今、「グローバル教育」なのか？ 今更聞けない基本の「き」を、花園のGTN・中村広記先生にお話ししていただきました。

「グローバル教育」とは、どのような教育なのですか？

日本では、近年、少子高齢化が進んでいますよね。これからの日本を支える人の数が減っていくと、国力低下に繋がります。例えば、これまで100人でやってきた仕事を70人でやろうとすれば、当然、大変ですよね。そこですぐに人口を増やすことができればいいのですが、そう簡単なことではありません。となれば、いま生きている日本人、特に若い人たち一人一人の「個の力」を高めていくしかないんですね。それを高めるのが、教育で

中村 広記 (なかむら ひろき)
花園中学高等学校
一貫教育部長・グローバル教育推進室統括責任者。



す。だから、今、教育改革が国を挙げて進められているのです。そして、このような社会で活躍できる人材を育てる教育を「グローバル教育」と呼んでいます。

なるほど。「グローバル社会」で必要とされる「グローバル人材」を育てるのが「グローバル教育」なんですね。

そうですね。そのような社会にあって、個々の企業も、より「力」のある人材を求めています。出身大学名よりも、その人自身としての「個の力」が大切なんです。だから、東大や京大を卒業していても、その人自身が力不足と判断されれば、100社受けても内定がもらえない。「関関同立を出ていれば何とかなる」時代は終わったのです。

スーパーグローバル大学

タイプA トップ型 13校

北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、広島大学、九州大学、慶応義塾大学、早稲田大学

タイプB グローバル牽引型 26校

千葉大学、東京外国語大学、金沢大学、京都工芸繊維大学、岡山大学、国際教養大学、国際基督教大学、上智大学、東洋大学、法政大学、明治大学、立教大学、立命館大学、関西学院大学、立命館アジア太平洋大学など

社会を生き抜く、4つの「力」

社会で必要とされる「個の力」とは、具体的にはどのような力なのですか？

まず、社会で共に働いていくための「協調性（コミュニケーション）」。それから、困難なことがあっても折れない「精神力（メンタリティ）」。より良いものを求めていく「向上心（アンビション）」。そして、自ら新しいものを創り出す「創造性（クリエイティビティ）」の4つです。このような「力」を持って突き進んでいける人は貴重ですね。最近では、入社しても2、3年で会社をやめてしまう人が後を絶たないことが社会問題になっています。また、仕事を続けていても、「向上心」や「創造性」に乏しく、誰かの指示がなければ動けない人が多いと言われています。いわゆる「指示待ち」ですね。自ら考えて行動を起こすことができない。それではいけないんです。失敗することが問題なのではありません。

「本物」になるために、今できること

大学の入試が大きく変わると言われていますが、それに伴い、高校の教育も変わるのでしょうか。

もちろんです。例えば、現中1生からセンター試験が廃止され、新テストが実施されることが既に決定していますよね。また、今後の大学入試では、「21世紀型学力」といって、「思考力」「判断力」「表現力」等、その人自身の考える力や人間性を深く問うような試験になると言われています。そのような入試を大学が行うということになれば、高校も、それに合わせた教育をしていかなければなりません。

大学教育も変化しているのですね。

昨年、「スーパーグローバル大学」も指定されました。タイプAのトップ型が13校、タイプBのグローバル牽引型が24校の、計37校です(図)。これらの大学を中心に、これから世界規模で活躍できる「グローバル人材」を育成しようとする取り組みが既に始まっています。

これらの変化について、中高生はどのように対応すれば良いのでしょうか。

危機感を持つべきではないかと思います。現在、中1以下の人は、「本物」にならないと、良い大学に入ることができません。中2以上の人は、これまでの勉強、これまでの意識でも、目の前の受験はくぐり抜けられるでしょう。しかし、社会に出て数年もすれば、新しい教育で鍛えられた「本物」が出てきて、その人たちと同じ土俵に立つことになります。そこで戦うためには、彼らに負けないような「力」を、今後、自力で身に付けていく必要があるのです。



花園では、その「力」を付ける機会が多く与えられていますよね。

グローバル教育推進室としても、力を尽くしています。昨年、中高一貫コースの生徒を対象に導入した「スカイプ英会話講座・eラーニング」では、英語の四技能(読む・書く・聞く・話す)をバランス良く伸ばすことができます。それから、同じく一貫コース生を対象に開いている「グローバルシェイパーズ・フォーラム」では、ダボス会議で有名な「世界経済フォーラム」が正式に任命したグローバルシェイパーズの方々から、直接お話を聞くことができます。また、今年の夏には、全コースの希望者を対象にフィリピン・セブ島での英語強化研修を行いました。そして、最も大切な「毎日の授業」も進化しています。本校のICT教育研究会では、電子黒板やiPadの導入をはじめ、新しい教育スタイルの拡大を図っています。生徒のみなさんには、このような機会をぜひ、最大限に活用してほしいと思います。

「なりたい自分」を思い描いて

最後に、花園生にメッセージをお願いします。



「個の力」を高めて下さい。そして、「本物」になって下さい。そのためには、ビジョンを持つことが大切です。ただ勉強する、ただクラブ活動をする、のではなく、なぜそれをするのか、つまり、それをする事によって「どんな自分になりたいのか」を常に自問し、想像して下さい。そして「どうすればそのような自分に近づくのか」を逆算して行動すれば、毎日の活動の精度が格段に上がります。自分自身を成長させるために、必ずしも留学する必要はありません。21世紀を生き抜く力とは、なにも特殊な能力ではないのですから。

HANAZONO
Press
Global

花園プレス・グローバル第2号、いかがでしたか？ 次回の第3号では、再び、中村先生と、社会でグローバルに活躍されている方との対談です。長年に渡りアメリカ各地で蜂(はち)の研究をされてきた蜂博士・木本千穂さんにお話をうかがいます。どうぞお楽しみに！ (May K)